

## カンキツ新品種「肥のあかり」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

担当者：坂西 英

### 研究のねらい

これまでの極早生温州には、高単価が望める 9 月下旬に出荷できる品種がなかった。そこで、栽培しやすく果実品質が良く、10 月上旬の「豊福早生」に続いてリレー出荷できる品種を育成する。

### 研究の成果

#### < 来 歴 >

「肥のあかり」は、1991 年に「日南 1 号」を種子親に「ジョッパオレンジ」を交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生変異である。本系統の特徴は以下のとおりである。

#### < 特 性 >

1. 樹姿は、「豊福早生」と同様の中間で、樹勢はやや強い(表 1)。
2. 葉の大きさは、「豊福早生」よりやや小さい。枝梢は長く、若木の時はトゲが発生しやすい。
3. 着色は揃いが良く、9 月下旬には 4 ~ 6 分となり「豊福早生」より 10 日程度早い。完全着色は 10 月上旬であり、果皮色が濃い(表 2)。
4. 果汁は高糖度で酸は低く食味は良好で、9 月下旬には糖度 10 度以上、酸 1 %程度となる(表 3)。

以上のことから、「肥のあかり」は、「豊福早生」出荷前の 9 月下旬から収穫・出荷が可能で、樹勢の強い極早生温州として期待できる。

### 普及上の留意点

1. 「肥のあかり」は、県内の温州ミカン栽培地域において、温暖で日照条件が良く排水良好な園に適する。
2. 結果期に至るまでは、トゲの除去と葉数確保に努めるが、トゲは結実を開始すると次第に消失する。また、結果促進のために開張気味の樹姿をとることが必要である。
3. 結果当初は果実がやや小さい傾向にあることから、早期摘果に努める。
4. ウイルス・ウイロイド対策として、高接ぎ樹からの穂木採取は行わない。

表1「肥のあかり」の樹体、葉、枝梢の形態

品種・系統	樹姿	樹勢	春 葉				春 梢			
			葉身長	葉幅	葉柄長	葉面積	基部径	長さ	節間長	トゲ数 <sup>a)</sup>
			(cm)	(cm)	(cm)	(cm <sup>2</sup> )	(mm)	(cm)	(cm)	(本)
肥のあかり	中間	竹強	11.1	4.58	2.04	33.4	5.4	21.0	2.59	5.73
日南1号	中間	中	11.4	4.60	1.74	33.8	3.7	14.1	1.85	0.00
豊福早生	中間	強	12.0	5.75	1.94	45.5	4.2	16.1	2.03	0.47

注) いずれの品種・系統も普通温州高接ぎ3年目。

a) トゲ数は春梢1本あたりのトゲの本数。

表2「肥のあかり」の果実形態及び着色時期(2000~2002年)

品種・系統	平均	果実	果形	果肉	果皮		果肉色	着色始期	完着期
	果重	横径	指数	歩合	着色歩合	果皮色 <sup>a)</sup>	(カラ-チャート)	(カラ-チャート)	
		(g)	(cm)	(%)					
肥のあかり	65.0	5.45	133.6	79.1	6.5	6.8	7.8	9月上	10月上
日南1号	92.9	6.41	128.8	80.4	3.8	3.4	7.1	9月上	10月上
豊福早生	84.3	5.94	135.3	81.9	1.7	2.8	6.9	9月上	10月上中

注) 「肥のあかり」「日南1号」は「興津早生」高接ぎ同一樹であり、「豊福早生」はカラタチ次代の近隣樹である。いずれの年も7月中旬にシートマルチ実施。

調査日：2000.9.18、2001.9.20、2002.9.26

a) 旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャートを用い、果頂部の最も着色が進んでいる位置を測定。

表3「肥のあかり」の年次別果実品質

品種・系統	2000年		2001年		2002年		3カ年平均	
	糖度	クン酸(%)	糖度	クン酸(%)	糖度	クン酸(%)	糖度	クン酸(%)
肥のあかり	11.9	1.31	13.8	1.17	13.6	1.01	13.1	1.16
日南1号	11.1	1.75	11.8	1.34	11.6	1.44	11.5	1.51
豊福早生	10.1	1.25	11.5	1.29	11.8	1.24	11.1	1.26

注) 「肥のあかり」「日南1号」は「興津早生」高接ぎ同一樹であり、「豊福早生」はカラタチ次代近隣樹である。いずれの年も7月中旬にシートマルチ実施。

調査日：表2と同一である。



写真1「肥のあかり」の着果状況  
(2002年10月9日)

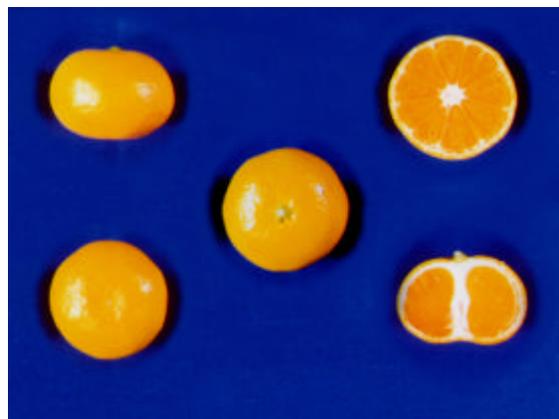


写真2「肥のあかり」の果実(5方向)